

# 山や古社寺・城などによって描かれたただならぬ自然災害の鎮め保全図形

深澤 大輔 (新潟工科大学)

## 1. はじめに

日本書紀の推古7(599)年の条には「地震あり、舎屋悉く破壊される。よって各地に地震神を祭らせる。」との詔が発せられている。これがその後どのように守られ、社寺などが造られたかは明かではないが、地震をはじめとする自然災害の鎮めとして建てられたと推察される。これまで殆ど知られて来なかった社寺や城などの配置や図形について紹介して、我が国における景観の見方に新たな視点が必要なことを、事例を基に述べてみたい。

全国の活断層や構造線を見ると、その近くには由緒ある古社や古寺、または城などが見つかる。例えば、川筋は地震の亀裂に起因していたり、霊山は火山や雪を頂く高山であったりする。これらから、我が国における近世以前の都市づくりと鎮護国家がどのように行われてきたかを明らかにし、今後の地域計画からまちづくりに至るヒントを得ることを目的としたい。

## 2. 方法

- ①1/2.5万地形図などを用意し、活断層の位置と古い神社や寺・城などを探す。
- ②できるだけ現地に出掛け、その地勢・由緒・年代などを調べる。
- ③神社や寺については、平面図や外観を調べ、聖なる図形や数が使われていないか観察し、これはと思った場所の写真撮影を行う。
- ④やや広域の地図の上で、周辺にある古社寺などをプロットし、それらが一直線や特殊な図形を描いていないかチェックする。
- ⑤何か特別な図形が見つかったら、その位置に置かれた年代と為政者などを調べ、誰が何の目的で行ったのかなどを考察する。
- ⑥結果を図と簡単なメモによって記録し、それらを年代順に並べ、整理する。
- ⑦活断層などの概念は近年になってからのもの

のである。これに対し、天地合一や衆星共次(北極星と北斗七星)・五岳真形、鬼門・裏鬼門、天門・地門、北辰などの観念は知られなくなっている。これら両者の基礎知識を修得し、時代変遷や意味の考察などを行い、文章にまとめる。

⑧最近、デジタルマップやインターネットを手軽に利用出来るようになってきているので、それらを駆使し、能率良く作業を行う。

## 3. 事例の紹介

ほぼ年代順に整理すると以下の如くとなる。

### 事例1 美保神社と三保神社

⇒日本列島を自然災害から守る最古の神社。

#### 美保神社と三保神社

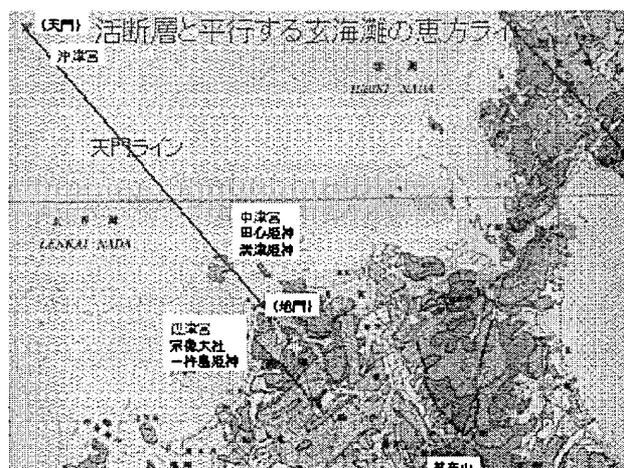
美保=三保:3つの保(保=霊)=地震・台風・水害  
-大神山神社宮司談(平成6年4月1日)-

この2つの神社は、今から二千年程前に日本列島を地震・台風・水害の霊から守るために、日本海側と太平洋側に建立されたとのことである。



### 事例2 三点が結ぶ宗像大社の恵方ライン

⇒韓国(大陸)からの文化が入ってきた表玄関。



**事例3 鹿島神宮と出雲大社と美濃国分寺**  
 ⇒美濃では国分寺と国分尼寺と国分町が三点一直線。能郷白山は濃尾地震の震源(根尾谷)。

**出雲大社と鹿島神宮を結ぶ線**

⇒日本列島の中で海を渡らないで太閤の通る一番長い線:吉野裕干説

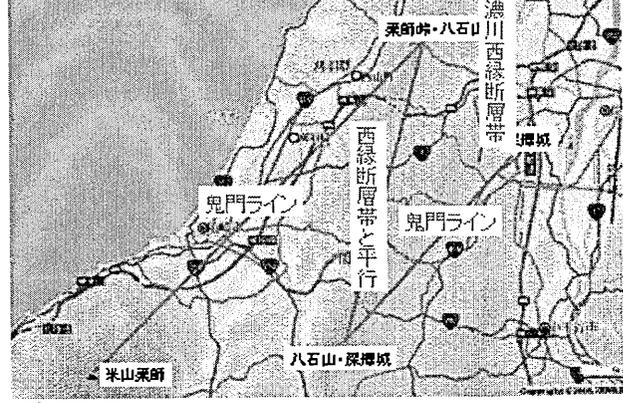
吉野裕干氏は、その中点が餘田神宮に当たるとしているが、実際は、美濃国分寺が近い。即ち、美濃国分寺と国分尼寺・国分町はオリオン座の三つ星と同様、一直線に並んでいる。オリオン座の三つ星は、真東から上って真西に沈む唯一の星座である。より正確には、能郷白山の山頂から約8km東に寄ったところが中点である。この白山の南西約4kmの位置が、濃尾地震M8.0の震源で、根尾谷断層の傾斜に当たる。

出雲大社の神座は西向きとなっている。鹿島神宮は、北向きである。西は太閤の沈む方向で鎮め、北は北風の方角で穴定を示している。



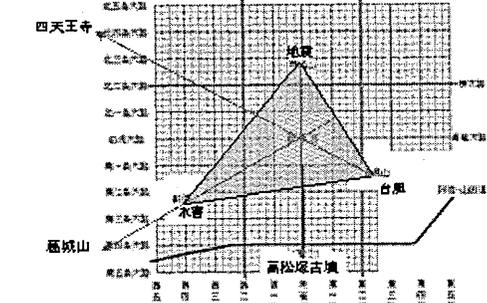
**事例6 柿崎和泉守景家が描いたZ字形**  
 ⇒米山の麓を拠点としていた景家は、大武将の夢を見、信濃川西縁断層帯の鬼門封じをした。

**柿崎和泉守景家が描いたZ字形鬼門ライン**



**事例4 藤原京の大和三山**  
 ⇒藤原京は、地震と台風と水害から守られる形で造られた。高松塚古墳に二十八宿が描かれた。

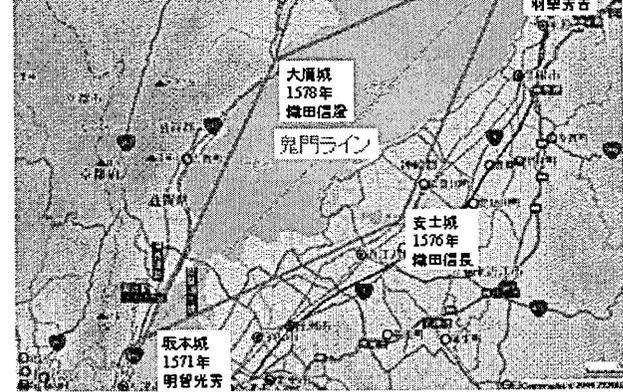
**藤原京(694~710年)**



(大和)三山鎮めとなす 敵傷山:うねぶ⇒うねる⇒水害。耳成山:耳鳴り⇒地鳴り⇒地震。香具山:香り⇒風⇒台風

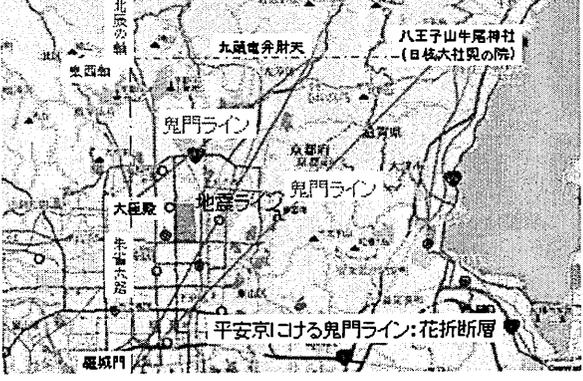
**事例7 信長が琵琶湖に描いた菱形**  
 ⇒信長は3つの水城を配して安土城を建て、琵琶湖の水軍を支配した。菱形は、水の鎮め図形。

**琵琶湖湖畔に菱形に建てられた城**



**事例5 平安京のZ字形の鬼門(地震)除け**  
 ⇒比叡山が京都の鬼門と言われてきたが、その先の北方に花折断層が伸びている。

**平安京(794~1180年)**

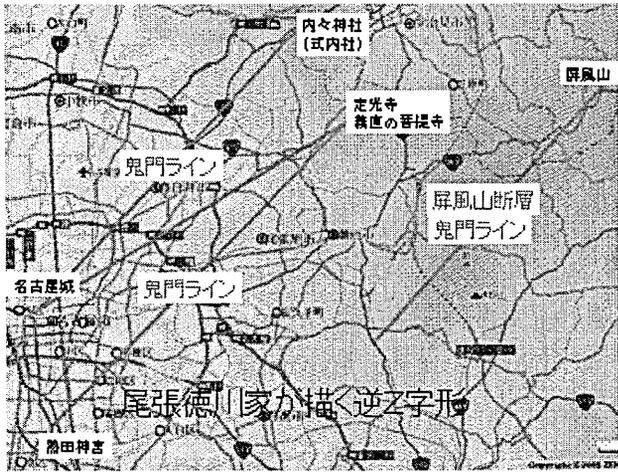


**事例8 秀吉が京都に描いた正三角形**  
 ⇒午(火気)の三合を組むことで、水気(水害)を払い、地震を鎮めることを祈願した。

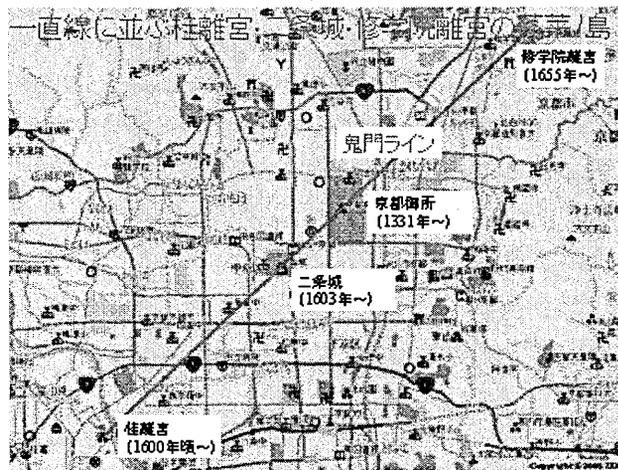
**秀吉が京都に描いた正三角形**



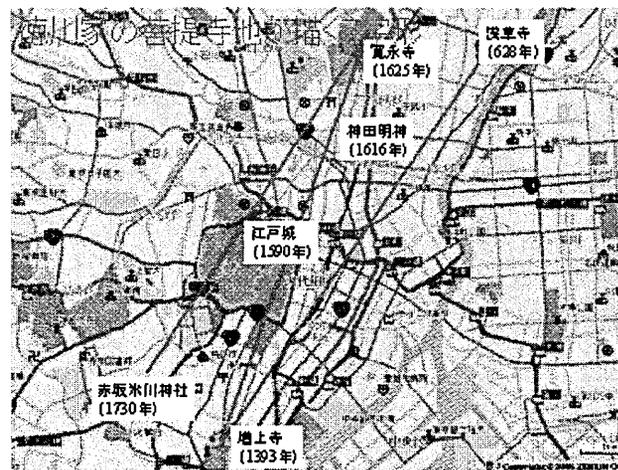
事例9 尾張徳川家が描いた逆Z字形  
 ⇒名古屋城の鬼門に義直の菩提寺を建てたとされているが、屏風山断層が鬼門ライン。



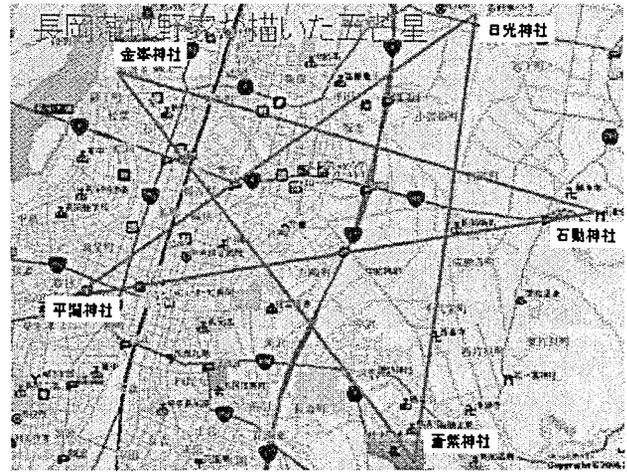
事例10 三点一直線に並ぶ蓬莱ノ島  
 ⇒これら三箇所の蓬莱ノ島は、縄張りに際し測量のポイントとされていたと推察される。



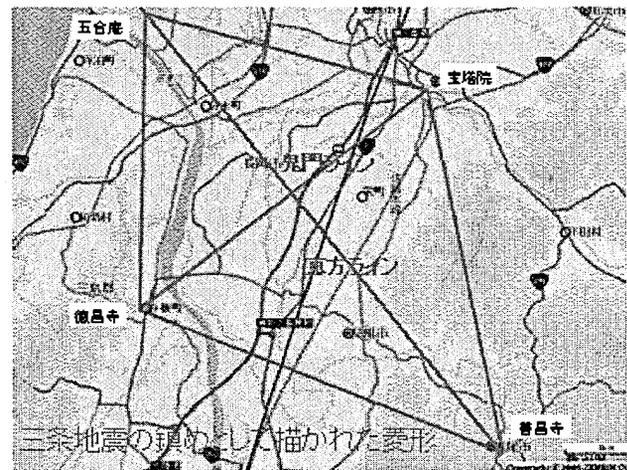
事例11 徳川家の菩提寺他が描くZ字形  
 ⇒江戸城の鬼門は神田明神で裏鬼門は氷川神社である。それを除く三寺が菩提寺である。



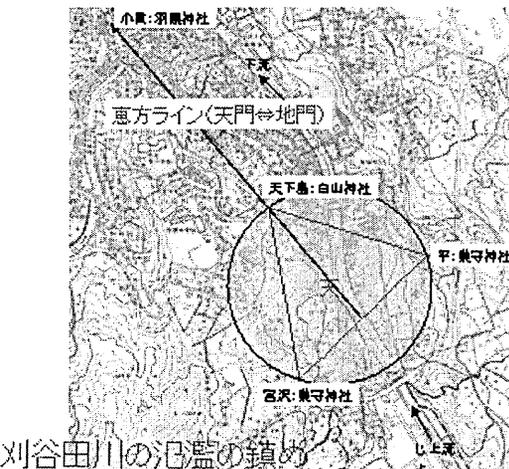
事例12 長岡藩牧野家が描いた五芒星  
 ⇒牧野家藩主の墓地を蒼紫神社に集め、その北に日光神社を配して長岡城下町の鎮めとした。



事例13 良寛死後に描かれた地震の鎮め菱形  
 ⇒良寛は、三条地震後に三条と与板の寺に見舞状を送っている。死後、善昌寺に地蔵が寄進。



事例14 円の内接正三角点に移設された神社  
 ⇒大正15年の水害で百間堤が破堤した際、3つの集落の神社が正三角形に配置された。



### 3. 結果の要約

①活断層の通っている場所は、水が得られ、道が出来るので、古来、人が集まり、住むのに良い場所であった。巨大地震の発生周期は1000年±500年である。

②「地震・雷・火事・・・」と恐ろしいものの筆頭に「地震」が挙げられているが、むしろ大災害(大凶)が起きるとそれからは平安(大吉)が訪れると考えられていた。そのため、上棟祭や嫁入りの際には、餅や金を捲き、それを拾って貰って祝うなど、地震国日本独特の文化が生まれ、発展した。

③天の秩序をこの世にもたらすことで平安な世の中になるとの考えは、中国から仏教の伝来と共に伝搬したもので、聖徳太子・天武天皇などがそれを理念として国造りを行った。

ex. 天(○) 地(□) 合一・十七(九十八)  
条憲法・暦・都造り etc.

④最澄は帰国後比叡山に延暦寺を建立し、天台密教を開いた。空海は高野山において真言密教を唱えた。様々な聖なる図形を寺の配置などによって描いているのは、天台密教派と推察される。親鸞の開いた浄土真宗(大谷派)のお寺も北斗七星などの形に配置されている例が見つかるが、これらの中には江戸時代以降に有力商人や名主・大庄屋などの寄進によってもたらされたものが多い。

⑤古い神社や寺は、活断層の上や先、脇などに建立されているものが多数見られる。これは、活断層のある所には霧が立ち込め、冷気が充満するのでその適地として選定されたものと推察される。また、それらを一直線や正三角形など1つしか無い形に3つ並べることによって、地震や水害・台風などの災害を鎮められると古来信じ、寺や神社、城などを配置してきた。

⑥為政者は、徳を持って、治山・治水事業を行おうとしていた。そのような中で地震や台風・大火などが起きると、不徳の至りと考え、更に立派な寺や神社を建立して、2度とそのような災害に襲われないように祈願し、政治を行ってきた。その結果、そのようなポイントに大きく立派な寺や神社、城が見られるようになった。

### 4. 考察

古来、恐しいことの諺に「地震・雷・火事・親父」と言われているが、これには何故水害と台風は含まれないのであろうか。今回整理してみると、地震については現在のように地殻変動によって起きるなどの知識は無かったが、確かに高い関心があったものと考えられる。

2で見た色々な呪術的な図形(以下「聖図」と略称)を見ると、役(小角)行者(634-706)、泰澄大師(682-767)、最澄(伝教大師)(767-822)、空海(弘法大師)(774-835)、陰陽師阿倍晴明(921-1005)、天海(慈眼大師)(1536-1643)などの名前が思い浮かぶが、彼らの説いた中にこれはという内容は見当たらない。他方、これらは道教思想から来ているとも言われているが、「道教」を見ても、悪霊は直進するなどと説かれているのみで、良く分からない。王道学を説いている「儒教」から派生した朱子学が「太極図」や「先天図」「河図洛書」といった易学上の図を重視したとされているが、それがどのようにして聖図に影響したかは不明である。風水思想、家相・地相、占星術、修験道他で鬼門一裏鬼門、北辰、四神、太極、五岳真行、三合、天地合一などが見られるが、自然災害の鎮めとの関連は良く分からない。

これは、近代化以前は「謀は蜜なるを欲す」とされ、祈願事は人に言わないことで成就されるとされて来たことに関係すると考えられる。そのような文化の中で、人に知られずに描かれていた線や図形が、デジタルマップや情報通信・交通の発達の中で、明らかになりつつあると考えられる。今回整理した以外にも沢山の「聖図」が全国各地で見つかっているが、これらがどのような意味で誰によっていつ描かれたのか、更に見ていく必要がある。

### 5. おわりに

豊田市の歴史的街並み調査をはじめとし、阪神淡路大震災を契機として活断層と神社・寺などの位置関係を見つけて来た。未だ、直感的な形で不思議な形を見つけ驚いている段階であるが、今後とも見つけて行きたいと考えている。